

第4回 神奈川県移動性（モビリティ）向上委員会

議事録概要（案）

日時：平成18年9月26日（火）10:00～12:00

場所：ホテルコスモ横浜 3階「平安の間」

【議事録概要】

① 移動性阻害エリア・箇所について

- ・ 要対策箇所13地区34箇所のうち、実際にどの程度対策が進んでいるか。
⇒要対策箇所の中には、事業が完了したもの、事業中のものからこれから対策を検討するものまでさまざまある。対策が立っていないものについては、今後できるものから順次検討していく。
- ・ 要対策候補箇所と要対策箇所は、平行して対策を行うのか。
⇒要対策箇所の対策を優先的に行う。要対策候補箇所は調査を実施して渋滞の要因分析等を行い、要対策箇所に位置付けるためには、当委員会で議論していただくことになる。
- ・ 34箇所全体のプランが同じように完成する時期はいつか。
⇒箇所毎の分析を行った上で対策案を検討していくが、分析結果によりすぐに対策が取れる箇所と取れない箇所がでてくることも考えられる。調査熟度を高めて報告していきたい。
- ・ 渋滞対策を考えるにあたって路線の特性、役割、環境問題など別の視点の考え方も必要になるのではないか。
⇒路線の特性を反映するためにも面的な視点での分析が必要。県・市のマスタープラン等での位置づけも含めて、面的な分析をしながら考えていきたい。
- ・ 渋滞対策以外にも、事故の問題や沿道環境の問題など、配慮しなければならない点があるのではないか。
⇒対策を検討する際には、安全性にも留意する。また、事業を実施する場合には、地元周辺の方々にもご理解いただいで進めていきたい。

- ・ 道路をスムーズに走れることが本当によいことか。走るスピードを抑えるような道路の作り方もあるのではないか。欧州などでは（ハンプの）実例を見たことがある。
 - ⇒各道路の役割を明確にしておく必要があると考えている。幹線道路では、スムーズさは大切な要素であると考えられる。一方、生活道路では、場合によっては速度を押さえる施策も有効と考えられる。幹線道路が整備されて、生活道路の交通量が約3割減少したという事例報告もあるため、面的な対応の中で検討していきたい。
- ・ 渋滞が起きている道路では、緊急車両の走行を阻害するようなこともある。緊急車両がスムーズに走れるようにすることも極めて重要と思われる。
 - ⇒災害時の緊急ネットワーク網も含めて今後検討することが必要と考えており、それらを考慮しながら対策を練ることは重要である。

② 今後について

- ・ 交通状況が変わると渋滞の発生状況も変わる。対策実施後も継続してチェックをかけてほしい。継続する仕組みづくりが重要である。

以上